

応用練習問題 6

<解答>

問 1 t 期 : 49,000 円

t+1 期 : 134,400 円

t+2 期 : 167,760 円

問 2 t 期の期末仕掛品に含まれる固定製造原価 : 5,000 円

t 期の期末製品に含まれる固定製造原価 : 20,000 円

t+1 期の期末仕掛品に含まれる固定製造原価 : 8,000 円

t+1 期の期末製品に含まれる固定製造原価 : 24,000 円

t+2 期の期末仕掛品に含まれる固定製造原価 : 18,000 円

t+2 期の期末製品に含まれる固定製造原価 : 24,000 円

問 3 t 期 : 74,000 円

t+1 期 : 141,400 円

t+2 期 : 177,760 円

問 4 ウ

【解説】

直接原価計算と全部原価計算の総合的な理解を問う問題であり、期首製品、期首仕掛品、期末製品および期末仕掛品の全てが存在する場合の固定費調整を求められていて、さらに日商簿記 2 級では珍しい理論問題も含まれていることから問題の難易度は高い。資料の与え方も複雑なため問題の難易度をさらに高めている。

問 1～問 3

「t 期の販売単価は 1,000 円であったが、每期、前期の販売単価から 2% ずつ値上げしたうえで販売している」の解釈がまずはポイントになる。したがって、t 期、t+1 期、t+2 期の販売単価は次のようになる。

t 期 : 1,000 円 t+1 期 : $1,000 \times 1.02 = 1,020$ 円 t+2 期 : $1,020 \times 1.02 = 1,040.4$

また、本問では固定費調整の一連の手続きを問 1 から問 3 で誘導させる形で解答を求めている。したがって、問 1 で直接原価計算方式の損益計算書を作成し、問 2 で固定費調整に必要な期末製品と期末仕掛品に含まれる固定製造原価を計算し、問 3 で全部原価計算方式の損益計算書を作成するという流れに乗って解答を進めていけばよい。

なお、期首製品と期首仕掛品に含まれる固定製造原価は、1 期前の期末製品と期首仕掛品に含まれる固定製造原価と同額になることに注意が必要である。したがって、t 期の期末製品と期末仕掛品は t+1 期の期首製品と期首仕掛品になるため、t 期末に固定費調整によって、

直接原価計算で算定した営業利益に期末製品と期末仕掛品に固定製造原価相当分を加算して全部原価計算で算定した営業利益に修正したものを、翌期（t+1 期）首に期首製品と期首仕掛品から固定製造原価相当分を差し引いて直接原価計算で算定した営業利益に再修正するという処理が行われていることになる。このため、t+1 期末の固定費調整では、t+1 期首の期首製品と期首仕掛品に含まれる固定製造原価（=t 期末の期末製品と期末仕掛品に含まれる固定製造原価）を差し引く処理が行われる。

t 期の損益計算書（直接原価計算方式）

I 売上高		(400,000)	
II 変動売上原価		(180,000)	
変動製造マージン		(220,000)	
III 変動販売費		(16,000)	
限界利益		(204,000)	
IV 固定費			
1. 固定製造原価	(105,000)	← $525 \times @200$	525 は当月投入（加工換算量）
2. 固定販売費	(20,000)		
3. 固定一般管理費	(30,000)	(155,000)	
営業利益		<u>(49,000)</u>	問 1

固定費調整（t 期）

直接原価計算による営業利益	49,000	
期末仕掛品に含まれる固定製造原価	5,000	← $50 \times 1/2 \times @200$ 円 問 2
期末製品に含まれる固定製造原価	<u>20,000</u>	← $100 \times @200$ 円 問 2
小計	74,000	
期首仕掛品に含まれる固定製造原価	0	
期首製品に含まれる固定製造原価	<u>0</u>	
全部原価計算による営業利益	<u>74,000</u>	問 3

t+1 期の損益計算書（直接原価計算方式）

I 売上高		(591, 600)	
II 変動売上原価		(261, 000)	
変動製造マージン		(330, 600)	
III 変動販売費		(23, 200)	
限界利益		(307, 400)	
IV 固定費			
1. 固定製造原価	(123, 000)	← $615 \times @200$	615 は当月投入（加工換算量）
2. 固定販売費	(20, 000)		
3. 固定一般管理費	(30, 000)	(173, 000)	
営業利益		<u>(134, 400)</u>	問 1

固定費調整（t+1 期）

直接原価計算による営業利益	134, 400	
期末仕掛品に含まれる固定製造原価	8, 000	← $100 \times 2/5 \times @200$ 円 問 2
期末製品に含まれる固定製造原価	<u>24, 000</u>	← $120 \times @200$ 円 問 2
小計	166, 400	
期首仕掛品に含まれる固定製造原価	5, 000	← $50 \times 1/2 \times @200$ 円
期首製品に含まれる固定製造原価	<u>20, 000</u>	← $100 \times @200$ 円
全部原価計算による営業利益	<u>141, 400</u>	問 3

t+2 期の損益計算書（直接原価計算方式）

I 売上高		(676, 260)	
II 変動売上原価		(292, 500)	
変動製造マージン		(383, 760)	
III 変動販売費		(26, 000)	
限界利益		(357, 760)	
IV 固定費			
1. 固定製造原価	(140, 000)	←700×@200	700 は当月投入（加工換算量）
2. 固定販売費	(20, 000)		
3. 固定一般管理費	(30, 000)	(190, 000)	
営業利益		<u>(167, 760)</u>	問 1

固定費調整（t+2 期）

直接原価計算による営業利益	167, 760	
期末仕掛品に含まれる固定製造原価	18, 000	←150×3/5×@200 円 問 2
期末製品に含まれる固定製造原価	<u>24, 000</u>	←120×@200 円 問 2
小計	209, 760	
期首仕掛品に含まれる固定製造原価	8, 000	←100×2/5×@200 円
期首製品に含まれる固定製造原価	<u>24, 000</u>	←120×@200 円
全部原価計算による営業利益	<u>177, 760</u>	問 3

問 4

ウ（2 つ）

A：正しい

B：誤り 月初・月末に製品在庫や仕掛品がある場合には当期の生産量と販売量が一致したとしても営業利益の金額は異なる。

C：誤り 全部原価計算では生産量を増やすと営業利益が増大する。

D：正しい